

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : エアventフィルター RF003000
供給者の会社名称,住所及び電話番号
会社名称 : 株式会社東洋製作所
住所 : 大阪府東大阪市本庄2-4-6
担当部門 : 理化本部 品質保証室
電話番号 : 072-967-1360
緊急連絡先 : 東洋濾紙株式会社 品質保証部 お客様サポート室
電話番号 03-5521-2178
メールアドレス trk-hinsho@advantec.co.jp
推奨用途 : 気体の精密濾過
使用上の制限 : 上記以外の用途にご使用される場合は、事前にご相談ください。



2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類
物理化学的危険性 : 区分に該当しない。
健康有害性 : 区分に該当しない。
環境有害性 : 区分に該当しない。
GHSラベル要素 : なし。

(注)本製品は、成形品であるため、GHS分類は上記の通りです。

なお、単一物質として有害性のある物質(ソーダ石灰)を含んでおります。

詳細につきましては、「1.1. 有害性情報」をご参照ください。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
化学名又は一般名 : エアventフィルター
成分及び濃度又は濃度範囲 : ポリテトラフルオロエチレン (CAS No. 9002-84-0)
(フィルター)
ポリプロピレン (CAS No. 9010-79-1、9003-07-0)
(サポートメディア、コア、エンドキャップ、プロテクター、焼結体、ハウジング)
シリコーンゴム [エアventフィルターとしてシリカを0.2%以下含む] (シリコーンキャップ)
活性炭 (充填剤)
ソーダ石灰 [エアventフィルターとして水酸化カルシウムを焼く 16.5%含む] (充填剤)
官報公示整理番号
化審法 : (6)-939 ポリテトラフルオロエチレン
(6)-10、(6)-402 ポリプロピレン
(1)-181 ソーダ石灰 (水酸化カルシウムとして)
(1)-410 ソーダ石灰 (水酸化ナトリウムとして)
安衛法 : 別表第9の317 水酸化カルシウム

4. 応急措置

吸入した場合	:	熱分解により発生するガスの吸引は、一時的にインフルエンザに似た症状を示す。 症状は頭痛、関節の痛み、一般的な不快感、発熱、咳、悪寒、心悸亢進および胸部不快感を生じる。 医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合	:	該当しない。
眼に入った場合	:	該当しない。
飲み込んだ場合	:	該当しない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	水（噴霧）、粉末消火剤、泡沫消火剤、二酸化炭素消火剤、ハロゲン化消火剤など。
使ってはならない消火剤	:	データなし。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	:	データなし。
環境に対する注意事項	:	データなし。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	:	データなし。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	:	高温にさらされた場合は有毒ガスを発生する虞があるため、熱源へのばく露、接触を避ける。 アルカリ金属、アルミニウム、マグネシウムのような金属との接触を避ける。
保管	:	変質を防止するため、直射日光、紫外線、水濡れ、高温、低温、高湿、屋外保管を避けると共に、強酸、強アルカリとの接触を避ける。 3,000kg以上の保存時には、消防法（指定可燃物：合成樹脂類）の適用を受ける。 10,000kg以上の保存時には、消防法（指定可燃物：石炭・木炭類）の適用を受ける。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	日本産業衛生学会	:	2mg/m ³ （最大値）	（水酸化ナトリウム）
	ACGIH	:	TWA 5mg/m ³	（水酸化カルシウム）
		:	STEL 2mg/m ³	（水酸化ナトリウム）
設備対策	:	必要に応じて講ずる。		
保護具	:	必要に応じて使用する。		

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	固体、カプセル容器状フィルター。
色	:	ハウジング；半透明、フィルター；白色、 充填剤；黒色、白色。

臭い	:	なし。
融点/凝固点	:	データなし。
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	データなし。
可燃性	:	あり。
爆発下限界及び爆発上限界/可限界	:	該当しない。
引火点	:	該当しない。
自然発火点	:	該当しない。
分解温度	:	該当しない。
pH	:	データなし。
動粘性率	:	該当しない。
溶解度	:	水に不溶。
n-オクタール/水分配係数	:	データなし。
蒸気圧	:	データなし。
密度又は相対密度	:	データなし。
相対ガス密度	:	該当しない。
粒子特性	:	データなし。

10. 安定性及び反応性

反応性	:	通常の手扱い条件においては安定。 260℃以上で極めてゆっくりだが分解を始める。 400℃以上では分解速度が速くなる。 熱分解により生成が始まる可能性のある温度レベルと分解生成成分。 <table> <tr> <td>テトラフルオロエチレン</td> <td>≥</td> <td>430℃</td> </tr> <tr> <td>ヘキサフルオロプロピレン</td> <td>≥</td> <td>440℃</td> </tr> <tr> <td>パーフルオロイソブチレン</td> <td>≥</td> <td>475℃</td> </tr> <tr> <td>カルボニルフロライド</td> <td>≥</td> <td>500℃</td> </tr> </table> 150℃以上で加熱した場合、微量のホルムアルデヒドを徐々に生成する。 580℃以上に加熱すると分解し、酸化カルシウムを生成する。	テトラフルオロエチレン	≥	430℃	ヘキサフルオロプロピレン	≥	440℃	パーフルオロイソブチレン	≥	475℃	カルボニルフロライド	≥	500℃
テトラフルオロエチレン	≥	430℃												
ヘキサフルオロプロピレン	≥	440℃												
パーフルオロイソブチレン	≥	475℃												
カルボニルフロライド	≥	500℃												
化学的安定性	:	通常の手扱い条件においては安定。												
危険有害反応可能性	:	酸と接触すると反応し、発熱する。												
避けるべき条件	:	熱源への曝露、アルカリ金属、アルミニウム、マグネシウムのような金属、強酸、強アルカリとの接触を避ける。 日光、熱、混触危険物質との接触を避ける。												
混触危険物質	:	強酸化剤。 酸												
危険有害な分解生成物	:	テトラフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレン、パーフルオロイソブチレン、カルボニルフロライドなど。 一酸化炭素、二酸化炭素等の酸化炭素類、不完全燃焼により生成する微量の炭素化合物、二酸化珪素、ホルムアルデヒド、酸化カルシウム。												

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	:	データ不足のため分類できない。（混合物として） （単一物質として） 吸引、摂取や皮膚からの吸収により重傷あるいは致命的となる虞がある。（ソーダ石灰）
		経口毒性： ラット LD50 7,340mg/kg(水酸化カルシウムとして) ウサギ LD50 325mg/kg（水酸化ナトリウムとして） マウス LD50 >15,000mg/kg（シリカとして） ラット LD50 >22,500mg/kg（シリカとして）
（経皮）	:	データ不足のため分類できない。
（吸入：ガス）	:	データ不足のため分類できない。
（吸入：蒸気）	:	データ不足のため分類できない。
（吸入：ミスト、粉塵）	:	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	:	データ不足のため分類できない。（混合物として） （単一物質として） 区分1。（ソーダ石灰）
眼に対する重篤な損傷・刺激性	:	データ不足のため分類できない。（混合物として） （単一物質として） 区分1。（ソーダ石灰） 粉じんが目に入ると刺激を起こす可能性がある （活性炭）
呼吸器感作性又は皮膚感作性	:	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	:	データ不足のため分類できない。
発がん性	:	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	:	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器（単回ばく露）	:	データ不足のため分類できない。（混合物として） （単一物質として） 区分1（呼吸器系）。（ソーダ石灰）
特定標的臓器（反復ばく露）	:	データ不足のため分類できない。（混合物として） （単一物質として） 区分2（肺）。（ソーダ石灰）
誤えん有害性	:	データ不足のため分類できない。

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性（急性）	:	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性（慢性）	:	データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	:	データなし。
生態蓄積性	:	データなし。
土壌中の移動性	:	データなし。
オゾン層への有害性	:	データなし。

1 3. 廃棄上の注意

該当法規に従い、廃棄物として処理する（国、都道府県ならびに地方自治体の法規、条例に従う）。

一般産業廃棄物と同様に、都道府県知事が許可した産業廃棄物処理業者もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託して処理する。

焼却処分するときは、管理された焼却設備を用いて、大気汚染防止法、廃掃法、水質汚濁防止法などに沿って処理する（廃棄時には、産業廃棄物として処理すること

をおすすめいたします)。

なお、活性炭は、産業廃棄物としての取扱いが必要で、廃棄法及び地方自治体の法規・規制に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

国内規制がある場合の規制情報： 消防法における指定可燃物に該当する。

15. 適用法令

- 安衛法 : 名称等を表示し、又は通知すべき危険及び有害物 別表第9の317
(水酸化カルシウムとして)
- 消防法 : 第九条の四(指定数量未満の危険物等の貯蔵又は取扱いの基準)、危険物の規制に関する政令第一条の十二、別表第四指定可燃物(合成樹脂類。3,000kg以上は消防法の適用を受ける。3,000kg未満の場合は物品の貯蔵および取扱いの技術上の基準は市町村条例で定める)。
(ポリプロピレン、シリコーンゴム)
第九条の四(指定数量未満の危険物等の貯蔵又は取扱いの基準)、危険物の規制に関する政令第一条の十二、別表第四指定可燃物(石炭・木炭類10,000kg以上は消防法の適用を受ける。10,000kg未満の場合、物品の貯蔵および取扱いの技術上の基準は市町村条例で定める)。
(活性炭)
- 化審法 : 既存化学物質(6)-939(テトラフルオロエチレン)
既存化学物質(6)-10、(6)-402(ポリプロピレン)
既存化学物質、製造輸入量の届出を要しない物質(1)-181
(水酸化カルシウムとして)
既存化学物質(1)-410 (水酸化ナトリウムとして)
-

16. その他の情報

記載内容の取扱い

本データシートの記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

また、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではなく、注意事項は、通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

ご需要家各位は本シートを参考にして、自らの責任において、個々取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取りくださいますよう、お願いいたします。

参考文献

- ・GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z 7252:2019)
 - ・GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (JIS Z 7253:2019)
-